冬の虹

歌集

冬の虹

生方たつゑ

新星書房刊

歌集

冬の虹

昭和六十年二月五日　印刷
昭和六十年二月二十日　発行

定価二五〇〇円
送料　二五〇円

郵便番号　三七八
群馬県沼田市沼田上之町一九九
著者　生方たつゑ

発行者　伊藤幸子

郵便番号　一七六
東京都練馬区中村北四―七―一〇
発行所　新星書房
電話（999）四六八五番
振替東京九―八五〇六二番

まえがき

作歌から離れることはなかったのに、何故かこの数年短歌よりも散文ばかり書いていたようで、今ノートをひろげてみてわれながらおどろいている。

「野分のやうに」をまとめたのは夫を亡くした五十四年であったから、私としてはめずらしく歌集出版がとぎれたものになった。

つい先頃夫の七年忌をすませた。なすべきことが沢山のこっているのに、相変らず身辺は雑然としていて気持ばかりあせる状態にある。夫の野位牌をもって二上山にのぼった日の健康はすでにないが、せめてその間の「作品」だけでもまとめる決心

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

をし、急にこの集をまとめた。

今も医師の手を離れ切るような健康状態ではないので、入れのこした作品もあろうけれど、このままの形で大方の御教示をねがうよりほかはない。

目

次

まえがき　一

雪に点す　二
雪をきく　二五
あこがれを待つ　二八
犬のまつ庭　三〇
はまごうの花　三三
しみじみと　四四
秋くれば　四八
雪に対ふ　五三
密度なき夏　五五
潮の襞　五五

冬の星座　八〇
あこがれ　八五
かくれキリシタンの跡を　九〇
雪　九三
雪ぐにに　九六
いのちを研ぐ　九九
新雪と犬　一〇四
赤い郵便車　一一
手紙　一一六
冬眠　一一八
流氷の海　一二三
手帖をひらく　一二一
道白く　一五二

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

冬の虹

雪に点す

詩(うた)のこと忘れてすぎしいく日ぞ冬至もやがて
すぎてゆくべく

ひとりの家の門とざす日もながくして冬ごもるべし犬もわたしも

命しぼりて何をせしやと裸木のさむざむとせる門扉を閉ざす

鮭の習性よみつつさびしわれよりは遠き世界
に生き遂げるもの

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com